

Ⅲ 稚魚等

1 調査方法

(1) 調査地点及び調査回数

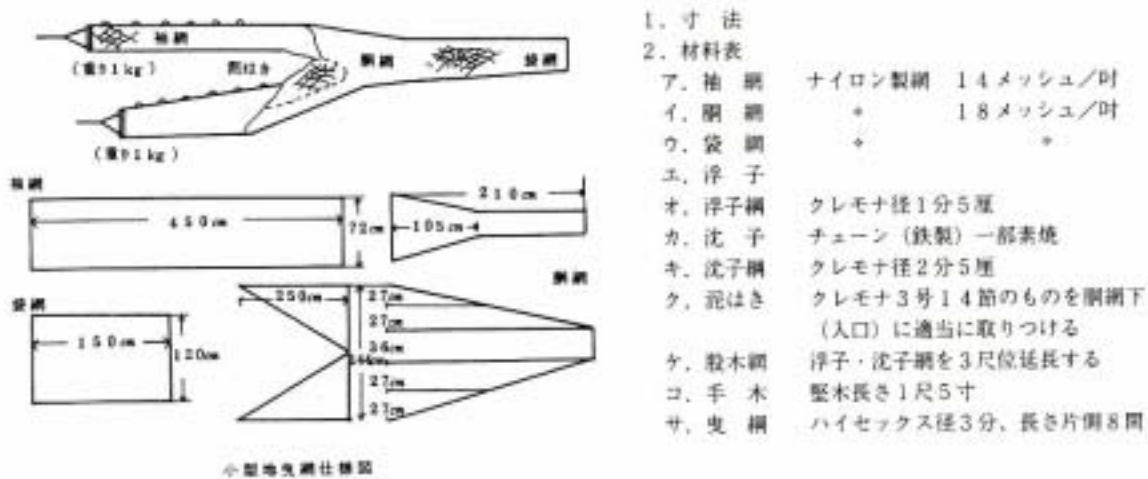
3 地点：葛西沖人工渚、お台場海浜公園、城南大橋（図Ⅰ－1）
月1回 年9回（12月、1月、2月を除く）

(2) 採集方法

小型地曳網（図Ⅲ－1）を汀線に対してほぼ垂直あるいは平行に約 20m 曳いた。1 回の採集面積は約 100m²である。調査は原則として、大潮、干潮時に実施した。

(3) 分析項目

- ① 個体数、湿重量、体長及び全長。カタクチイワシ等小型魚類が大量に採取された場合は適宜 20 個体程度を選び出し計測した後、体長のレンジ、平均値を求め、全湿重量を計測する。
- ② 魚以外の種の同定、個体数、湿重量、甲殻類の体長、雄雌、抱卵の有無
- ③ 水質 上層：透視度、水色、水温、塩分、pH、D0

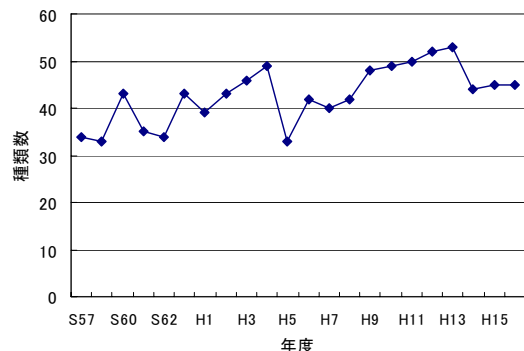


図Ⅲ－1 小型地曳網見取図

2 調査結果

(1) 調査概況

調査で採集された魚類の出現種リストを表Ⅲ－1（1）に、魚類以外の出現種リストを表Ⅲ－1（2）に示す。出現した魚類は 22 科 45 種であった。昨年度種類数が減少したが、長期的に見て例年の変動幅の中にあるとみられる。16 年度多く採取されたものは、マハゼ、ビリンゴなどハゼ類の稚魚が多く、それ以外ではサツパ、ボラ、スズキ、イシガレイなどの稚魚が多かった。



図Ⅲ－2 稚魚出現種類数の経年推移

表Ⅲ－１ 稚魚等出現種一覧（魚類）

(平成16年度)

No.	門	綱	目	科	種名	和名	
1	脊椎動物	硬骨魚	ニシン	ニシン	<i>Sardinella zunasi</i>	サツバ	
2					<i>Konosirus punctatus</i>	コノシロ	
3					カタクチイワシ	<i>Engraulis japonicus</i>	カタクチイワシ
4			サケ	アユ	<i>Plecogloss altivelis</i>	アユ	
5					<i>Tribolodor taczanowskii</i>	マルタ	
6			コイ	コイ	<i>Tribolodor</i> sp.	ウグイ属	
7			ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathu. schlegeli</i>	ヨウジウオ	
8					SYNGNATHINAE	ヨウジウオ亜科	
9			スズキ	トウゴロウイワシ	ボラ	<i>Hypoather bleekeri</i>	トウゴロウイワシ
10						<i>Mugil cephalus</i>	ボラ
11						<i>Liza haematocheila</i>	メナダ
12					<i>Liza</i> sp.	メナダ属	
13					スズキ	<i>Lateolabra japonicus</i>	スズキ
14					キス	<i>Sillago japonica</i>	シロギス
15					ヒイラギ	<i>Leiognathu nuchalis</i>	ヒイラギ
16					クロサギ	<i>Gerres oyena</i>	クロサギ
17					ニベ	<i>Argyrosom argentatus</i>	シログチ
18					シマイサキ	<i>Terapon jarbua</i>	コトヒキ
19					タイ	<i>Acanthopa schlegeli</i>	クロダイ
20					ハゼ	<i>Acentrogoi pflaumii</i>	スジハゼ
21						<i>Favonigob gymnauchen</i>	ヒメハゼ
22						<i>Mugilogob abei</i>	アベハゼ
23						<i>Tridentigei obscurus</i>	チチブ
24						<i>Tridentigei bifasciatus</i>	シモフリシマハゼ
25						<i>Tridentigei</i> sp.	チチブ属
26						<i>Glossogob olivaceus</i>	ウロハゼ
27						<i>Chasmicht gulosus</i>	ドロメ
28						<i>Chaenogol castaneus</i>	ビリンゴ
29						<i>Chaenogol heptacanthus</i>	ニクハゼ
30						<i>Chaenogol</i> sp.	ウキゴリ類
31		<i>Chaenogol macrognathus</i>				エドハゼ	
32		<i>Chaenogol</i> sp.			ウキゴリ属		
33		<i>Acanthogo flavimanus</i>			マハゼ		
34		<i>Acanthogo lactipes</i>			アシシロハゼ		
35		<i>Eutaeniich gilli</i>			ヒモハゼ		
36		<i>Luciogobi</i> sp.			ミズハゼ属		
37		GOBIIDAE			ハゼ科		
38		イソギンポ			<i>Pictiblenni yatabei</i>	イソギンポ	
39		ニシキギンポ	<i>Pholis</i> sp.	ニシキギンポ属			
40	カサゴ	コチ	<i>Platycephal indicus</i>	コチ			
41	ウバウオ	ネズッポ	<i>Repomucei valenciennesi</i>	ハタタテヌメリ			
42	カレイ	カレイ	<i>Pleuronecti yokohamae</i>	マコガレイ			
43			<i>Kareius bicoloratus</i>	イシガレイ			
44	フグ	ギマ	<i>Triacanthu biaculeatus</i>	ギマ			
45		フグ	TETRAODONTIDAE	フグ科			

表Ⅲ-1 (2) 稚魚等出現種一覧 (魚類以外)

(平成16年度)							
No.	門	綱	目	科	種名	和名	
1	刺胞動物	花虫	イソギンチャク		ACTINIARIA	イソギンチャク目	
2	扁形動物	渦虫	多岐腸		POLYCLADIDA	ヒラムシ目	
3	紐形動物				NEMERTINEA	紐形動物門	
4	軟体動物	腹足	盤足	ミスゴマツボ	<i>Stenothyra edogawaensis</i>	エドガワミスゴマツボ	
5					カリバガサガイ	<i>Crepidula onyx</i>	シマメノウフネガイ
6		新腹足			ムシロガイ	<i>Hinia festiva</i>	アラムシロガイ
7		異旋			トウガタガイ	PYRAMIDELLIDAE	トウガタガイ科
8		頭楯			キセワタガイ	<i>Philine argentata</i>	キセワタガイ
9					カノコキセワタガイ	AGLAJIDAE	カノコキセワタガイ科
10		二枚貝	フネガイ		フネガイ	<i>Scapharca</i> sp.	
11			イガイ		イガイ	<i>Chloromyt viridis</i>	ミドリイガイ
12						<i>Limnopern fortunei kikuchii</i>	ウロコエンカワヒバリガイ
13						<i>Musculista senhousia</i>	ホトギスガイ
14						<i>Mytilus edulis</i>	ムラサキイガイ
15		カキ			イタボガキ	<i>Crassostre gigas</i>	マガキ
16		マルスダレガイ			ツキガイ	<i>Pillucina pisidium</i>	ウメノハナガイ
17					バカガイ	<i>Mactra quadrangularis</i>	シオフキガイ
18						<i>Mactra</i> sp.	
19					ニッコウガイ	TELLINIDAE	ニッコウガイ科
20					アサジガイ	<i>Theora fragilis</i>	シズカガイ
21					マテガイ	<i>Solen strictus</i>	マテガイ
22						<i>Solen</i> sp.	マテガイ属
23					カワホトギス	<i>Mytilopsis</i> sp.	
24		マルスダレガイ				<i>Mercenaria mercenaria</i>	ホンビノスガイ
25						<i>Mercenaria</i> sp.	ビノスガイ属
26						<i>Phacosoma japonicum</i>	カガミガイ
27						<i>Ruditapes philippinarum</i>	アサリ
28						VENERIDAE	マルスダレガイ科
29					イワホリガイ	<i>Petricolima aequistriatus</i>	シオツガイ
30			オオノガイ		オオノガイ	<i>Mya arenaria oonogai</i>	オオノガイ
31						MYIDAE	オオノガイ科
32			ウミタケガイモド		オキナガイ	<i>Laternula marilina</i>	ウトオリガイ
33						LATERNULIDAE	オキナガイ科
34	環形動物	多毛	サンバゴカイ		サンバゴカイ	<i>Eteone</i> sp.	
35					カギゴカイ	<i>Sigambra tentaculata</i>	
36					ウロコムシ	<i>Harmothoe</i> sp.	
37						POLYNOIDAE	ウロコムシ科
38					ゴカイ	<i>Neanthes japonica</i>	ゴカイ
39						<i>Neanthes succinea</i>	アシナガゴカイ
40						NEREIDAE	ゴカイ科
41					チロリ	<i>Glycera</i> sp.	
42					ニカイチロリ	<i>Glycinde</i> sp.	
43					スピオ	<i>Polydora</i> sp.	
44					ミスヒキゴカイ	<i>Cirriformis tentaculata</i>	ミスヒキゴカイ
45					オフェリアゴカイ	<i>Armandia</i> sp.	
46	節足動物	軟甲	アミ		アミ	<i>Neomysis awatschensis</i>	クロイサザアミ
47						<i>Neomysis japonica</i>	ニホンイサザアミ
48						MYSIDAE	アミ科
49					クーマ	DIASTYLIDAE	ディアステイリス科
50		等脚			コツブムシ	<i>Sphaeromys</i> sp.	コツブムシ属
51						<i>Gnорimosys</i> sp.	イノコツブムシ属
52					ヘラムシ	<i>Cleantoides</i> sp.	ホソヘラムシ属
53					ヒゲナガヨコエビ	<i>Ampithoe</i> sp.	ヒゲナガヨコエビ属
54					ユンボソコエビ	<i>Grandites</i> sp.	ドロソコエビ属
55						AORIDAE	ユンボソコエビ科
56					ドロクダムシ	<i>Corophium</i> sp.	ドロクダムシ属
57					キタヨコエビ	ANISOGAMMARIDAE	キタヨコエビ科
58					メリタヨコエビ	<i>Melita</i> sp.	メリタヨコエビ属
59					モクスヨコエビ	<i>Hyale</i> sp.	
60					クチバシソコエビ	OEDICEROTIDAE	クチバシソコエビ科
61					ワレカラ	<i>Caprella</i> sp.	ワレカラ属
62	節足動物	軟甲	十脚		クルマエビ	PENAEIDAE	クルマエビ科
63					サクラエビ	<i>Acetes japonicus</i>	アキアミ
64					テナガエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>	ユビナガスジエビ
65						<i>Palaemon orientis</i>	シラタエビ
66						<i>Palaemon</i> sp.	スジエビ属
67					テッポウエビ	<i>Alpheus distinguendus</i>	オニテッポウエビ
68					エビジャコ	<i>Crangon affinis</i>	エビジャコ
69					アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	アナジャコ
70						<i>Upogebia</i> sp.	アナジャコ属
71					ヤドカリ	<i>Pagurus dubius</i>	ユビナガホンヤドカリ
72					カニダマシ	PORCELLANIDAE	カニダマシ科
73					ガザミ	<i>Carcinus mediterraneus</i>	チチュウカイミドリガニ
74						<i>Charybdis japonica</i>	インガニ
75						<i>Charybdis</i> sp.	インガニ属
76						<i>Portunus pelagicus</i>	タイワンガザミ
77						<i>Portunus trituberculatus</i>	ガザミ
78						<i>Portunus</i> sp.	ガザミ属
79					オウギガニ	XANTHIDAE	オウギガニ科
80					カクレガニ	<i>Pinnixa rathbuni</i>	ラスバンマメガニ
81					イワガニ	<i>Eriocheir japonicus</i>	モクスガニ
82						<i>Hemigraps penicillatus</i>	ケフサイソガニ
83						GRAPSIDAE	イワガニ科
84					コブシガニ	<i>Philyra heterograna</i>	ヘリトリコブシ
85						<i>Philyra</i> sp.	マメコブシガニ属
86						LEUCOSIIDAE	コブシガニ科
87					クモガニ	<i>Pyromaia tuberculata</i>	イソカククモガニ
88		昆虫	ハエ目		ユスリカ	CHIRONOMIDAE	ユスリカ科
89						DIPTERA	ハエ目
90	棘皮動物	クモヒトデ				OPHIUROIDEA	クモヒトデ綱
91	原索動物	ホヤ	マボヤ		モルグラ	MOLGULIDAE	モルグラ科

(2) 干潟における魚類調査

地点別出現状況を表Ⅲ－2に示す。

年間の出現種類数は人工渚では昨年と同じ29種類、お台場海浜公園では昨年より4種減って29種類、城南大橋では昨年より7種減って33種類であった。全体として例年並の出現状況であった。

魚種はマハゼ、ピリンゴ、ヒメハゼが3地点共通して多い。これらハゼの仲間は干潟で定住する種で例年多く採集されている。16年度、マハゼは城南大橋で8,600個体、お台場海浜公園で4,700個体、葛西人工渚で350個体と多く採集されており、まさに東京都内湾干潟の代表種といえよう。

以下に地点別

の出現状況を見る。人工渚はエドハゼが例年多いのが特長で、16年度も5・6月に1,200、7,200個体採集された。また、サツパが7月、1000個体程度、ギマが8月167個体と多かった。お台場海浜公園はヒメハゼが多く各月採集された他、4月にニクハゼが14,000個体と大漁だった。3月にはイシガレイが59個体と多かった。城南大橋は他より出現種類が多いのが特長である。マハゼの多かった4月にウキゴリ類が1,300個体採集されている。

表Ⅲ－2 稚魚の地点別出現状況

番号	目	科	種名	小型地曳網			
				葛西沖人工渚	お台場海浜公園	城南大橋	
1	ニシン	ニシン	サツパ	★	◎	●	
2			コノシロ	●	○	○	
3			カタクチイワシ	カタクチイワシ		○	
4	サケ	アユ	アユ	●	○	◎	
5	コイ	コイ	マルタ	○			
6			ウグイ属	○	○	◎	
7	ヨウジウオ	ヨウジウオ	ヨウジウオ			○	
8			ヨウジウオ亜科			○	
9	スズキ	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ		●	○	
10			ホラ	●	◎	●	
11			メダ	○			
12		メダ属	○	○			
13		スズキ	スズキ	◎	◎	◎	
14		キス	シロキス	○	◎	○	
15		ヒイラキ	ヒイラキ	○		◎	
16		クロサキ	クロサキ			○	
17		ニベ	シログチ	◎			
18		シマイサキ	コヒキ	◎	◎		
19		タイ	クロタイ			○	
20		ハゼ	スジハゼ	スジハゼ		○	◎
21				ヒメハゼ	◎	★	●
22	アベハゼ					○	
23	チチブ					◎	○
24	シモフリシマハゼ			○			
25	チチブ属			◎	●		
26	ウロハゼ					○	
27	トロメ					○	
28	ピリンゴ			★	●	●	
29	ニクハゼ			◎	★	◎	
30	ウキゴリ類			★	●	●	
31	エトハゼ	●	●	★			
32	マハゼ	●	★	★			
33	アシロハゼ	◎	●	◎			
34	ヒモハゼ	○	○	○			
35	ミズハゼ属	○	◎	◎			
36	ハゼ科	●	◎	●			
37	イソギンポ	イソギンポ	○				
38	ニシギンポ	ニシギンポ属	○	○	○		
39	カサゴ	コチ	○		○		
40	ウハウオ	ネスッポ		○	○		
41	カレイ	カレイ	マコガレイ		○		
42			イシガレイ	◎	●	◎	
43	フグ	ギマ	●	◎	◎		
44		フグ科	○				
出現種類数				29種	29種	33種	

注)1.小型地曳網(平成17年4月～平成17年12月、8回):○9個体以下 ◎10～99個体 ●100個体以上 ★1000個体以上

注)2.ウキゴリ類はウキゴリ、スミウキゴリのいずれかを示す。

昭和 57 年度から平成 16 年度までの魚類出現リストを表Ⅲ－3 に示す。

小型地引網による調査結果（表Ⅲ－3）と昔の魚、現在の魚（「東京の川と海の生きもの」参照）の様子などから本年度の結果をみると以下のとおりとなっている。

アカエイ（底生魚、食物：ゴカイ類、貝類）は 1980 年代に見られなくなったとされたが、時々見られるようになっており、近年はほぼ毎年出現している（ただし、稚魚に該当しないため、リストからは除外されている）。16 年度も城南大橋で 6 月大小 4 個体の成魚が網にかかり放流した。サツパ、コノシロは毎年、カタクチイワシはほぼ毎年夏にみられている。アユは一時みられなくなったが、近年の水質改善などにより復活してきている。3 地点の中では人工渚で多い（図Ⅲ－4 参照）。イシカワシラウオは時々みられ復活が期待されているが、本年も採集されなかった。マルタは平成 3 年頃よりお台場などでみられるようになった。ボラ、スズキは毎年広い範囲でみられている。シロギスは一時みられなくなったが、近年は

夏から秋にかけて毎年採集されている。ハゼ類は毎年多種かつ数多く採集されている。エドハゼは国の絶滅危惧 I B 類、東京都でも A ランクに指定されているが、本年も各所で採集されており、人工渚では 1000 個体以上、6 月には 7,000 個体も採集された。ギンポは毎年採集されていたが、本年はギンポ属となった。コチ、ネズボ科も毎年採集されている。ヒラメは

城南大橋でのみわずかではあるがほぼ毎年採集されていたが 15 年度に続き 16 年度も採集されなかった。イシガレイは干潟調査では場所が生息に適した砂地ということもあり、毎年 4 月と 3 月に採集されている。ほぼ毎年採集されていたクサフグは昨年度に続き本年度はフグ科となった。

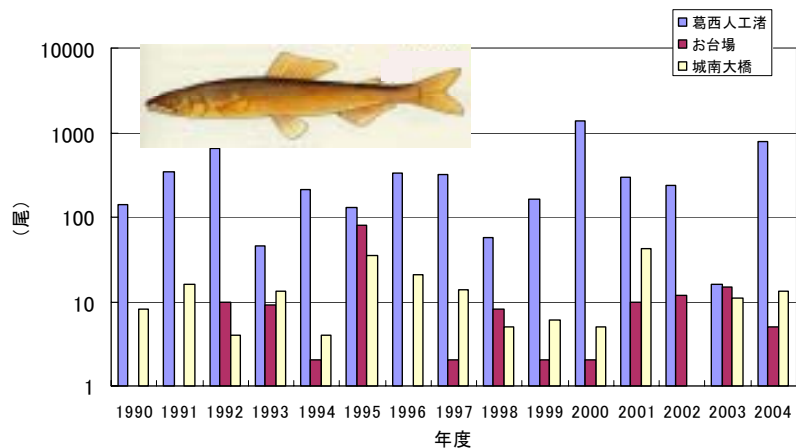
このように例年採集されていた魚種は、イシカワシラウオ、ヒラメの他は平成 15 年度ほぼ採集されたとみられる。

次に、干潟 3 地点で採取された魚類の個体数及び種類数の合計の月別変化を図Ⅲ－5 に示す。干潟で採取される魚類のほとんどは稚魚であるため、例年、多くの魚類が孵化して間もない 4 月、5 月には種類、個体数が多く、成長するにしたがい、沖合に移動するため、種類数、個体数が減少する。秋から冬にかけては、地点ごとの採取数は数個体となるが、3 月から種類数、個体数とも増加する。

（3）魚以外の生物

本調査では採取した魚類以外の生物についても、参考として分類同定を行っている。地点別出現表を表Ⅲ－4 に示す。採取されたものは、7 門 91 種であった。各地点で 40～65 種が採取された。個体数が圧倒的に多かったのはニホンイサザアミ、クロイサザアミ、エビジャコであり、他にホトトギスガイ、アサリ、アキアミなどであった。アサリはお台場で多く採集され、天然アサリの生息と確認されている。

地点別にみると、人工渚は種類は少ないがニホンイサザアミとエビジャコの個体数が夏から秋にかけて極めて多く、7, 8, 3 月には 1 曳網で 6～7 万個体も採集された。お台場は個体数は少ないが 65 種と多くの種類が出現していた。城南大橋は同じくニホンイサザアミが 4 月 32 万個体と多く採集された。これらの生物が干潟の稚魚や鳥たちの生息を支えている。



図Ⅲ－4 各地点におけるアユ稚魚の採取数経年変化

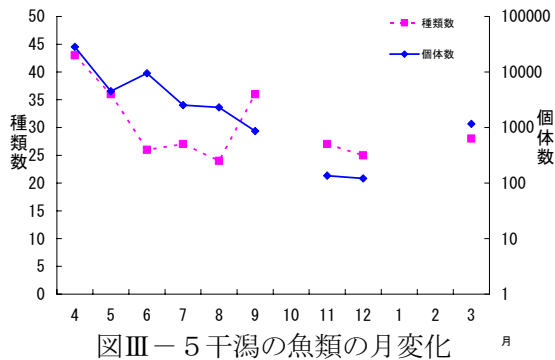
表Ⅲ－３ 稚魚出現種の経年推移

目	科	種名	S57	S58	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	
エイ	アカエイ	アカエイ			○		○	○	○		○				○		○	○				○	○		
ニシン	ニシン	マイワシ	○							○				○											
		サツバ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コノシロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	カタクチイワシ	カタクチイワシ	○			○		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○
		イワシ型変態シラス	○	○																					
		ニシン目不明種			○																				
カライワシ	カライワシ	カライワシ							○									○							
ウナギ	ウナギ	ウナギ			○																		○		
	アナゴ	マアナゴ							○								○		○						
サケ	アユ	アユ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	シラウオ	イシカワシラウオ	○	○				○		○	○	○						○		○					
コイ	コイ	ウグイ属	○	○												○		○	○	○	○	○	○	○	
		マルタ						○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コイ				○						○													
		モツゴ																					○		
		コイ科不明種																		○					
メダカ	カダヤシ	カダヤシ							○																
ダツ	サヨリ	クルマサヨリ																	○						
ヨウジウオ	ヨウジウオ	ヨウジウオ			○	○	○	○	○									○	○		○		○	○	
		ヨウジウオ亜科																						○	
スズキ	トウゴロイワシ	トウゴロイワシ			○	○	○			○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ボラ	ボラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		メナダ	○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○
		メナダ属								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		セスジボラ	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		ナンヨウボラ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ボラ科不明種	○	○				○											○						
	スズキ	スズキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	キス	シロギス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ムツ	ムツ					○																		
	アジ	イケカツオ				○													○						
		マアジ										○													
		コバンアジ																○							
		キングメアジ																				○			
	カイワリ												○												
	ヒイラギ	ヒイラギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	クロサギ	クロサギ										○	○	○						○	○			○	○
		セツパリサギ									○														
	ニベ	シログチ			○		○		○	○	○	○			○		○	○		○	○		○		
		ニベ																○	○	○	○		○	○	
	イサキ	コショウダイ			○		○	○			○						○	○		○	○				
		ヒゲダイ																						○	
	シマイサキ	シマイサキ			○		○		○		○				○	○			○	○	○	○	○	○	○
		コトヒキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	シバメコノシロ	ツバメコノシロ									○								○						
	タイ	クロダイ	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○		○	○		○	○	○		○	
	イシダイ	イシダイ																				○			
	スズキ亜目																		○						
カゴカキダイ	カゴカキダイ不明種			○																					
ウミタナゴ	ウミタナゴ		○											○											

表Ⅲ-3 稚魚出現種の経年推移（続き）

目	科	種名	S57	S58	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16		
スズキ	ハゼ	スジハゼ			○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ヒメハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ウロハゼ																				○	○	○	○	
		アベハゼ								○		○				○				○		○			○	
		ヨシノボリ							○			○	○						○							
		ヨシノボリ属																					○			
		チチブ	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○	○
		ヌマチチブ									○		○			○	○						○			
		(シマハゼ)	○	○	○	○	○			○																
		アカオビシマハゼ									○		○													
		シモフリシマハゼ									○	○	○	○	○				○		○	○	○	○	○	○
		チチブ属			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ビリンゴ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ヘビハゼ		○																						
		ニクハゼ								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウキゴリ	○	○						○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウキゴリ属																					○	○	○	○
		ウキゴリ類																								○
		スミウキゴリ																						○		○
		アゴハゼ																		○						
		ドロメ											○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		キヌバリ										○														
		エドハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アシシロハゼ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マサゴハゼ																						○		○
		ヒモハゼ			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
		ミミズハゼ		○							○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
		ミミズハゼ属				○																				○
		トビハゼ											○													
		ボウズハゼ																				○				
		ハゼ科	○	○	○																○			○	○	○
イソギンポ			○						○			○	○	○	○	○								○		
ナベカ			○																							
トサカギンポ			○																							
ナベカ属不明種			○																	○	○	○	○	○		
タウエガジ					○			○		○																
ニシキギンポ																						○				
ギンポ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ギンポ属			○																					○		
フサカサゴ																										
メバル									○					○		○	○		○	○	○	○	○	○		
ムラソイ																										
クロソイ																						○				
アイナメ	○	○			○	○												○								
メゴチ					○																					
コチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
コチ科不明種			○																			○				
クサウオ																						○				
クサウオ属																										
ウバウオ	ネズッポ	ネズミゴチ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		トビヌメリ							○	○							○	○	○	○	○	○	○	○		
		ハタタテヌメリ	○	○					○	○												○		○		
		ネズッポ属不明種																					○	○		
カレイ	ヒラメ	ヒラメ				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ガンゾウヒラメ	○	○																						
	カレイ	マコガレイ	○	○					○									○	○	○	○	○	○	○		
		イシガレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		カレイ科不明種	○																							
	ウシノシタ	クロウシノシタ	○			○					○										○					
	ササウシノシタ	ササウシノシタ										○														
フグ	ギマ	ギマ							○			○		○	○		○	○		○	○	○	○	○		
		アミノハギ																						○		
	フグ	クサフグ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		フグ科																			○	○	○	○		
出現種類数		合計	35	34	44	36	35	44	40	44	47	50	34	43	41	43	49	50	51	53	54	44	45	45		

* 網かけは総出現個体数が16年度1,000以上の種を示す。
アカエイは成魚のため参考値となる



図Ⅲ－5 干潟の魚類の月変化

表Ⅲ－4 魚類以外の出現種類数

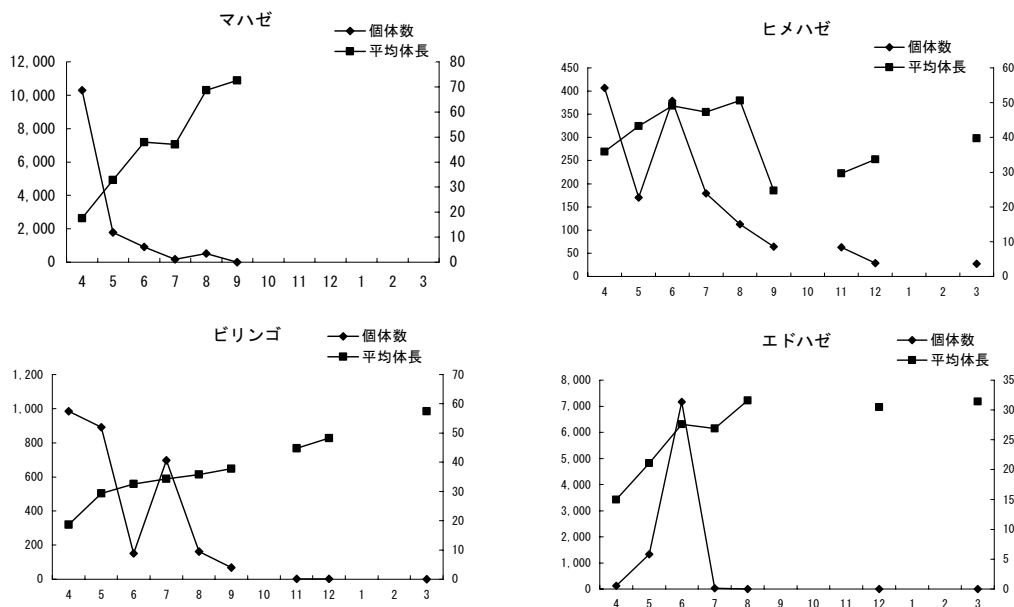
(平成16年度)

門	綱	人工渚	お台場	城南橋
刺胞動物	花虫	1		1
扁形動物	渦虫		1	1
軟体動物	腹足	2	6	2
	二枚貝	7	18	10
環形動物	多毛	7	8	3
節足動物	軟甲	23	30	28
	昆虫			2
棘皮動物	クモヒトデ		1	1
脊索動物	ホヤ		1	
合計		40	65	48

(4) マハゼ、ヒメハゼの月別変化

出現頻度の高いハゼ類のマハゼ、ビリンゴ、ヒメハゼ、エドハゼについて、干潟3地点の合計採取個体数及び平均体長の月別変化を図Ⅲ－6に示す。

マハゼ、エドハゼは4月、5月に大量に採取され夏以降はほとんど採取されなくなる。平均体長をみると、春先から成長していることがわかる。ビリンゴはマハゼ、エドハゼと同じように成長しているが、夏以降も体長の大きい個体が採取されている。マハゼは夏以降水深の深い所へ移動しているが、ビリンゴは干潟部に残っていることを示している。一方ヒメハゼは、秋に体長が小さくなっていることから、他のハゼ類と異なり、秋に産卵期があると推定される。また、エドハゼは6月に個体数のピークがみられている。これらの調査結果より、ハゼ類の生態を知ることができる。



図Ⅲ－6 ハゼ類の個体数と体長の月変化

【8月稚魚調査記録より】



○ 葛西人工渚

最干潮時刻の2時間前に調査（そのため、乗船時に泥中5m歩行あり難儀した）

採取生物

- ・ギマ（群れが接岸したか？2センチ大の稚魚がたくさん）
- ・コトヒキ（シマシマのかわいい稚魚）
- ・マハゼ、マルタ、スジエビ、シオフキ、ビリンゴ、エビシャコ
- ・アミ（意外と多く、全体に包まって他がみえない）



○ 城南大橋

釣り人二人 ハゼしか釣らない

大きなタイワンガザミやガザミに手を切られる

ハゼが圧倒的に多く、かつ大きい

アナジャコ発見

○ お台場

人出多い。水遊びの子どもたち

ミズクラゲ6個体

ボラが飛び跳ねる頻度高く、人々の注目を引く

イシガレイが小さいサイズから大きいサイズ



まで各種採れた。ここが成長にいい場所となっていることの証明か

お台場は いつも ギャラリーが多く、すぐ環境教室となる

なお、St. 6近くの東京港内はここ2ヶ月ボラの飛ぶ姿が多くみられる

